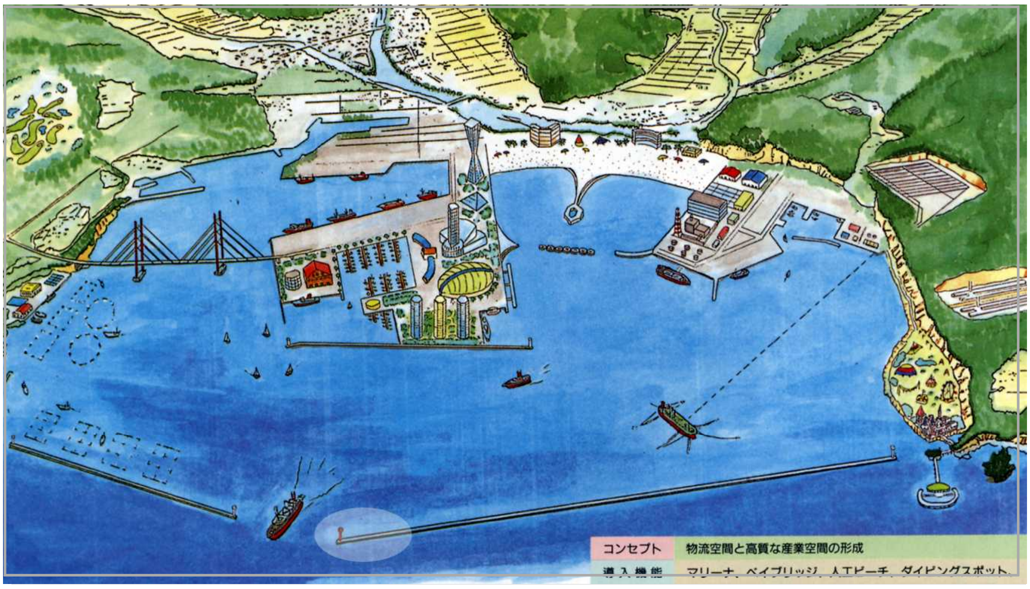
この**久慈湾港開発**のイメージ図と実際に行われている防波堤工事（昨年９月撮影）の写真を比べてみると、湾港防波堤の大きさが分かります（堤防の先端、白く楕円になっている場所が下の設置部分写真です）。



完成後防波堤長は3.5 キロ以上です。

着座部分はまだ 300 メートル弱ですが、完成後湾内利用できるコンブの増殖エリアは 200 ㌶以上（当事務局推定、野球のグランド約 200 個分）と見込まれます（全湾内域 500 ㌶以上）。これは種市町のウニ・アワビの磯漁業面積 120 ㌶と比較すればいかに広大か分かります。

久慈湾は全国でも有数の波の強い海域です。これは逆に海流によって湾内水質を綺麗に保つ環境でもあります。外洋の波の強さは、どんなロープも引きちぎるほど強く、コンブ、ワカメなど養殖の難しさは、この波との戦いが有るからです。

湾を締め切ると海の汚染が心配されます。大船渡湾、釜石湾、山田湾など海水が滞っている例を見るといかに汚れを防いだ海域を保つかが、海藻や魚介類の安定生産の条件になります。

現在の防波堤を一部透過性（海水を）にして、将来は魚礁も兼ねた防波堤や、波力発電も可能な構造に設計することが多様な湾港開発を進めることになるでしょう。

すなわち**森林整備や河川の浄化**は久慈湾港開発に必要な運動で、いまから始めなければ間に合わないことになります。***これが出来れば雇用の創出は勿論、湾港内で釣りのエリアや子供たちの安全な学習の場を作ることも夢ではありません。***

現在行われている久慈湾港防波堤工事２㌔沖写真、
巨大なクレーン船が小さく見え防波堤上の人間がアリより小さく見えます